



家庭倫理の会は「よくする活動」を推進しています
家庭を、 地域を、 日本を、 地球をよくする 活動を推進しています

21年度前半を終えて 栗山敏昭会長

皆様のお陰をもちまして中野区の方針の300世帯はほぼ目途が付きまして。しかし、このことで皆さんの「実践力」が高まったか、新世の普及が増えたかはまだ疑問です。会員一人ひとりが実践を通して家庭や職場を良くしていき、私たちの姿を見て会員や協賛をしてくれる方が増えることが理想です。実践発表の場を提供しても積極的に手を上げる方は少なく、体験報告カードの積極的な提出もまだないようです。「実行によって直ちに正しさが証明できる生活の法則」を学び、実践し、その意味で会の存在に感謝される会に後半取り組んで行きたいと思っておりますのでご協力をお願いします。



「おはよう倫理塾」研修 松枝秀雄 首都圏管区長

3月5日(木)5:30~6:30 天神会館 出席者17名
創生4年目は改善すべきは改善し、より良い方向に
“しきりなおし”ですと冒頭に話された。

「おはよう倫理塾」はすべて実践の場

- 1、「朝のあいさつ」はリーダー(中心者)に心を合わせる実践です。
- 2、「17ヶ条斉唱」は心の交流を図る場であり、普通のテンポで読みましょう。
- 3、読み手が同時に「ハイ」と返事した場合は従来は「どうぞ」と譲っていたが、今後はより積極的に読みましょう。
- 4、「栞」の区切りはリーダーに任せる。こだわりのないスナオの実践を。
- 5、会員スピーチは一人10分以内、時間を守っていくこと、破約失福にならぬよう。
- 6、「誓いの言葉」、今日はいかなる事があるうともと言う気持ちを込めて元気よく唱和しましょう。

実践は徹底してやりましょう、

「棚からぼた餅」は一生懸命にやったところに起きるもの。
ある憧れの女優さんに“鶴ちゃん口が臭うわよ”と注意され、不快な思いをさせていたんだと猛反省、改善していこうと毎日20分かけて歯を徹底して磨いた、その時の徹底すると言う思いがボクシング、絵、俳優として名を成すまでに息づいたと云う片岡鶴太郎氏の例を挙げ、普及にも“徹底する事の凄さ”を及ぼしていきましょう、そしてその人が幸せになる事を望み、又それを喜びとして、走りぬいて頂きたいと話された。

子育て中のお母さん2名入会！！

毎月開催している「子育てトークサロン」・どんぐりの会に始めて参加して下さった方も入会。一緒に勉強していきましょう
3月は17日(火)10時半～ 上高田地域センターです。

問い合わせ先 内倉：3391-3321



第3回体験発表会終了

2月8日(日)5:30~6:15 合同おはよう倫理塾・天神会館

報告者は茨木裕也さん(豊島サンプラ支部長代読) 嘉山登美江さん 解説は池田八重子副参事・生活倫理相談士

茨木裕也さん:栗山米菓勤務、関西より単身赴任、日頃社長から営業マンとして動きが悪いと叱責を受けていた、そこですぐ倫理研究所に行き生活倫理相談を受けた、すると仕事振りに喜びが足りない、喜びを増やさない、それには自分の命のもとであるお母さんを喜ばせなさい、毎日ハガキを出したらと言われた。自分は次男であり、実家の母は長男が見、自分は嫁の親をと言う具合で実家とは疎遠気味であり、何処かしっくり行かないものがあり、それが悩みの種であった。倫研で気付かせて頂いたにも拘らず、すぐには実践できないでいた、そんな折、母が肋骨と腰骨を骨折し、大事には至らなかったがロボット状態であった、すぐに家族全員で帰省し妻がかいがいしく世話をした、トイレ掃除や料理をする事で母と妻の関係が少しずつ良くなり確執も取れてきた、母の骨折と言う一大事ではあったが、私にとっては問題が解決した事でもあり、ありがたいことであった。これからも母を喜ばせる実践を続けます。(豊島支部長代読)

解説:“ やや動きが悪いぞ ”と社長から注意をされると言う苦難が先ずあって、すぐに生活倫理相談を受けると言う即行があり、親へのつながりが悪いと指摘され一日通信を実践し、奥様の心からの行為が母親に通じ 社長からの注意 母親の怪我 妻と母の確執、この3つの苦難が一度に解決したのでしょう。継続は力なりと言うが些細な事を続ける事は効果が倍加することである。この体験は2条、5条、13条に当たりますねと話された。

嘉山登美江さん:「孫の世界ユース参加」と題しての喜びの発表、孫は中学生になってから走り幅跳びと三段跳びに挑戦し、めきめき腕を上げ数々の競技会で優秀な成績を上げ、将来を囑望されている、一昨年はチェコのオストラバでの競技会に全国7人出場の中の一人に選ばれた、そこで成績は走り幅跳び7メートル32センチで2位を獲得した。秋田国体では招待選手として室伏選手と一緒にしたと、並んで取った写真を見せながら孫の活躍を嬉しそうに報告した、ご自分では「おはよう倫理塾」の会場のトイレ清掃、近くの環七ガード下の清掃を実践している。



解説:お孫さんの競技成績を見守る良いおばあちゃまですね、一時は孫の成績が気になって“ どうだった ” “ 次は何時何処でやるの ” と電話して嫁から “ 気が散るから電話しないで下さい ” と言われて落ち込んだ時もあったようですが、自分は祖母としてやれることを行えばいいのだと気付き実践した、その結果、今では嫁の方から情報を教えてくれるようになり、競技場へ云って孫の大介君と目が合うと手を振ってくれるようになったそうですと補充しながら次のように解説された。

主人のタバコを嫌わない 主人の帰りが遅くなっても起きて待つ 食事の後始末をすぐする 会場のトイレ掃除、かぎ開け 文化部長の大役を一生懸命務める。以上のような事をご自分の実践として続けているようですが目に見えない要素が働いて良い結果に繋がったのでしょとまとめられた。

家庭倫理講演会 4月29日(祝)

テーマ:家庭を良くする 10:00~11:45

家庭は人が生まれ、育ち、成長し生活する場所。家庭を明るく和やかにする事は幸福な人生を送る為の必須条件といえるでしょう。しかし現実にはさまざまな問題が起こります。そうした問題を解決しながら、明るく和やかな家庭を築くためのヒントを分かりやすくお話しします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

講師:中西康成研究員 なかの芸能小劇場



背後霊?コワ!



「ありがとう」の
アは、甘えを捨てること
リは、理屈を捨てること
がは、我「頑固」を捨てること
どは得意顔・得意になって話す、知っ
たかぶりをする、と言
うことを捨てる事
ウは、うそを捨てる事
これらの「わがまま」を捨てきった時
に初めて「ありがとう」の世界が体感
できるものなんだと実感できたので
す。 法人スーパバイザー 戸田栄造

『新世』4月号より



富士研セミナー 5月17日(日)~18日(月) 12名

予約が入ってきて
います、お早めに
申し込みを!

家庭倫理の会中野区

発行責任者 栗山敏昭

編集責任者 安藤忠子

家庭倫理の会中野区ホームページ <http://nakano-rinri.jp>